



引き締まった印象が美しい外観。敷地の正面には車2台分の駐車スペースと、その上にはフラットルーフ。全体的に屋根を架け、その下を玄関ポーチと自転車置場にするなど、まさに“機能美”を体現している。

建築家と叶える自分達の家づくり 建てようネット [徳島]

祝110棟目 建てようネットで建てた家

建築家・富田眞二 + 新井建設

藍住町・T邸 / キッチンを囲う家



「和の雰囲気が好き」といご夫婦の好みを反映させて、ダイニングの大きな窓に木製サッシを使用するなど和モダンな住まいが誕生。庭いじりが趣味というご主人によって、今後、中庭は美しく変貌していくはず。



青木稔

野々瀬徹

富田眞二



兼間 至公

野口政司

小西英利



中村正則

佐藤恵子

原政仁



久住高弘

新居照和・ヴァサントイ

松永佳史



中飯賀業

中井正剛

中川俊博



松田公彦

杉本真理子

伊月善彦



開達也

鳥羽知夫

内野輝明

建てようネット [徳島] の実績

(2013年3月31日現在)

- 建築家決定 165件
- 完成物件 116棟
(新築84棟、リフォーム22棟、店舗6棟、
店舗兼住宅4棟)



中野次郎

家族が自然とコミュニケーションを取り、絆を深めていく「キッチンを中心とした家」

富田さんに依頼した決め手は、安心感、そして包容力

もともと県営住宅に住んでいたTさんご夫婦。「家質も安かったし、ずっと住んでいても良かったんです。家を買うことに乗り気というわけでもなくて」と言うご主人とは逆に、奥様は前から『建てようネット』に興味を持っていたそうです。「結婚した時からいつかは家を建てたいと思っていて、私なりに想像はしていたんです。その中で『建てようネット』のこのことを知って、どの家もすごく魅力的に見えて。そこで主人に、“こんなのがあるみたいだから、試しに行ってみようよ”って、何気なく誘ったんです。あまりゴリ押しすると引かれてしまいそうだったんですが、うまく誘導できました(笑)」。

そんな夫婦の絶妙な駆け引き(?)を経て、2人が出会ったのが富田さんでした。親子ほど年が離れているのですが、「だからこそすごく頼りにできるし、なんでも相談できそうな僕の広さを感じたのが富田さんだったんです」とご主人。総勢22名の建築家が登録している『建てようネット』の中でも最年長の富田さんに、安心感を、そして包容力を感じたのが、依頼することになった大きな理由だったそうです。

家族のライフスタイルを見越した「キッチンを中心とした家」

富田さんとの面談では、「趣味は何か? どんな生活をしたいか?」といったライフスタイルについての話題がほとんどで、最初のうちは具体的な設計や間取りについての話はありません。なぜなら、会話の中から施主の生活をイメージして、その生活をいかに快適にできるかを考えていくのが富田さんのスタイルだから。そうしてT邸では、奥様の料理好きという一面から、またその手料理を楽しむに帰宅するというご主人の言葉から、「キッチンを中心とした家」という答えを導き出しました。

家」という答えを導き出しました。

玄関をくぐってまず驚かされるのが、6畳はあろうかという広い土間。パン作りが趣味という奥様は、以前にパン屋さんで働いた経験を活かして、いずれは自宅でお店やワークショップのようなものを開くことも考えているそうで、来客に対応したり、パンを陳列したりするスペースとして設えたのです(今はもっぱら、子どもが友達と走り回ったりする遊び場になっているようですが)。

祝110棟目 建てようネットで建てた家 建築家・富田真二 + 新井建設 藍住町・T邸 キッチンを中心とした家

食事でのコミュニケーションが、家族の絆を深める

その広い土間を抜けると、「キッチンを中心とした家」となるダイニングキッチン。「モンゴルの遊牧民住居のように、建物の中心にキッチンを中心とすることで、家族がコミュニケーションを取れて絆が深まる」という富田さんの思いの賜物です。そこに、「ダイニングテーブルとキッチンと一緒に、料理をしながら会話も楽しみたい。汚れても傷がついても平気なステンレス製なら最高!」という奥様の要望がマッチ。フルオーダーメイドのステンレス製ダイニングテーブルが設置されました。その結果、奥様が料理の腕を振るうかたわら、ご主人は晩酌を楽しみ、子どもは遊びや勉強に励み、その合間に笑い声があふれる、なんとも温かな空間になったのです。

土間とキッチンとは、障子一枚で隔られているだけで、いわば「玄関から丸見え」という状態。キッチンも、一般的には隠しておきたい場所ですが、料理上手=片付け上手の奥様には問題なし。むしろ、開放的にしたこと訪れる人も気さくに接することができるというメリットが生まれます。「キッチンを中心とした家」は、家族の絆を深めるだけでなく、親戚や友人知人との親交をも深められる家。いずれ大勢の人で賑わうことになるのではないのでしょうか。

T邸間取り



1F



2F

- ① 駐車スペース
- ② 玄関土間
- ③ 畳の間
- ④ ダイニングキッチン
- ⑤ デッキ
- ⑥ 居間
- ⑦ 中庭
- ⑧ 収納
- ⑨ 勝手口
- ⑩ WC
- ⑪ 洗面室
- ⑫ 浴室
- ⑬ 物干場
- ⑭ スタディコーナー
- ⑮ 寝室
- ⑯ 子供室
- ⑰ デッキバルコニー
- ⑱ 車庫の屋根
- ⑳ 坪庭

建築データ

■ 家族構成

施主[35歳]・妻[32歳]・子供2人[8歳][0歳]

■ 構造 / 木造

■ 工法 / 在来工法

■ 敷地面積 / 196.13㎡(約59.93坪)

■ 延床面積

合計 140.41㎡(約42.47坪)

1階 86.26㎡(約26.09坪)

2階 54.15㎡(約16.38坪)

車庫 33.75㎡(約10.21坪)

■ スケジュール

設計期間 2011年5月~2011年12月

工事期間 2012年1月~2012年8月

■ 設計監理 / 富田建築設計室

■ 施工 / 新井建設



キッチンに立つと、目の前に広がる大空間。窓は壁に収納できるため大開放にすることが可能。開け放せば、中庭からの心地良い風が吹き抜ける。また、キッチン側は一段低くなっているため、ダイニングテーブルに座った家族と視線を合わせられるのもポイント。



2Fの多目的スペースはスタディコーナーとして機能。真下がダイニングキッチンとなり、奥様はいつでも子どもの様子を感じ取れるようになっている。



駐車スペース兼エントランス。小さな砂利を敷き詰めることで和の雰囲気を演出するだけでなく、防犯対策にもなっている。



ダイニングの奥のリビング。左手のふすまを開けると中庭があり、「仕事のある日は基本的にダイニングにいますが、休日はここで、庭を眺めながらのんびりしています」とご主人。



玄関を入り、土間からダイニングを望む。ダイニングとの仕切りの障子は取納できるようになっているため、大開放空間を実現できる。右手の畳の間は、基本的には来客をもてなすスペースだが、ご主人曰く「一人晩酌タイムもってこい」だそう。



丁さんの夢を叶えた建築家

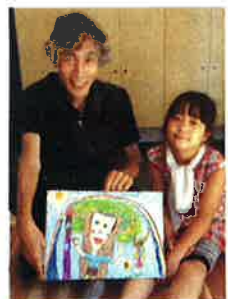
「建築家」富田真二

設計コンセプト

「住宅団地の一角、北東の角地に建つ住まいです。ファサードになる裏の道路側には2台分のガレージを兼ねた大きなフラットルーフを架け、ボートや自転車置場の軒下空間をつくり出しています。内部は料理上手な奥さんのためにキッチンを中心に置いた個性的なプランになっています。キッチンを楽しむの芯に据えることで、家族のコミュニケーションが生まれ易くなり、より絆は深まります。それは吹抜けを介して2階の個室とも繋がっています。また、この住まいで特筆したいことは玄関からキッチンがダイレクトに見えることです。一般的にはキッチンは隠すものですが、積極的に表に出すことで訪れる友人や近隣との親睦が取り易くなり、良好なお付き合いに役立ってくれることと思います。住まれてまだ半年しか経っていないのに、はや友人との家族パーティーを数回催されたそうです。訪問者が大勢来られても大丈夫なように玄関は広い土間とその傍らに畳の小部屋を設けています。【パーティーの似合う家】いつかそう呼ばれば最高に嬉しい」



吹き抜け部は向かい合うようにして窓を配しているため、明るさを確保できるだけでなく、風が吹き抜ける清々しさも。



絵が得意な長女の咲希ちゃん。引き渡しの時、お世話になった富田さんへ似顔をプレゼント。サプライズプレゼントに富田さんも顔が写りこまなしてました。



大胆な吹き抜けにしたダイニングキッチン。視覚的な広がりをもたせただけでなく、家のどこにおいても家族の気配を感じられる“つながり”を実現。また、料理中のニオイや湯気などがこもるのを防ぐことができ、機能性も抜群。



土間の畳の畳の間は、突然の来客などに対応するスペース。和紙の襦紙や雪見窓を配するなど、居心地の良さを追求している。



ベランダの床も杉板張りで居心地の良さは満点。目の前にはリビングの屋根があり、例えば布団を干すときに活躍する。



夫婦の主寝室には、吹き抜けからダイニングキッチンを見下ろすための窓を設置。スタディコーナーも見られるように、家族のつながりが意識されている。



現在は10歳ほどの子ども部屋。4月に出産したばかりの第二子のためにも、将来的には2部屋にセパレートする予定。